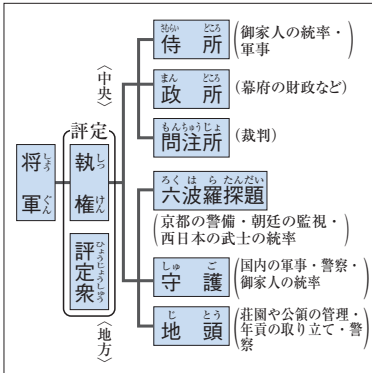




5

武士の台頭と鎌倉幕府



みなもの者、よく聞きなさい。これが最後の言葉です。頼朝公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海より深いものでした。みながそれに報いたいという志はきつと浅くないはず。名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣をうち取り、幕府を守りなさい。

- 諸国の守護の職務は、頼朝公の時代に定められたように、京都の御所の警備と、謀反や殺人などの犯罪人の取りしまりに限る。
- 武士が20年の間、実際に土地を支配しているならば、その権利を認める。
- 女性が養子をとることは、律令では許されていないが、頼朝公のとき以来現在に至るまで、子どものない女性が土地を養子にゆずりあたえる事例は、武士の慣習として数え切れない。

▲A 鎌倉幕府の仕組み

▲B 北条政子の訴え (吾妻鏡)

▲C 御成敗式目 (貞永式目)

1 武士の成長 (図表①~④)

- 武士の登場…地方の豪族や都の武官の中から武士がおこった。地方の武士は多くの家来を従えて武士団を形成。10世紀中ごろ、平将門が北関東で、藤原純友が瀬戸内海地方で、周辺の武士団を率いて反乱を起こした。
- 武士の成長…武士団のうち、源氏と平氏が有力になった。源義家は東北地方の大きな戦乱をしずめ、源氏が東日本に勢力。奥州藤原氏が平泉(岩手県)を拠点に東北地方に勢力。平氏は西日本に勢力。地方の武士は開発した荘園を都の皇族・貴族・寺社へ寄進し、農民から年貢を取り立てる。公領でも武士が年貢の取り立て。
米・布・絹など 国司が支配する荘園以外の土地

2 武士の政権の成立 (図表⑤~⑩)

- 院政…藤原氏と関係のうすい後三条天皇が位に就く→白河天皇が上皇となって院政を開始→鳥羽上皇が新しい荘園を認める強い力を持つ→保元の乱と平治の乱が起こる→平清盛が源義朝を破る。
- 源平の争乱…平清盛は太政大臣となり、兵庫(神戸市)の港を整備して中国の宋と貿易→清盛が後白河上皇の院政を停止→源頼朝や源義仲などが平氏に対して挙兵→源義経を送り平氏を壇ノ浦でほろぼす(壇ノ浦の戦い)。

3 鎌倉幕府の成立と執権政治 (図表⑪~⑲)

- 鎌倉幕府…頼朝は国ごとに守護、荘園・公領ごとに地頭を置く→鎌倉幕府の成立(鎌倉時代の始まり)→源義経と奥州藤原氏を攻めほろぼす→征夷大將軍に任じられる。将軍と御家人とは、御恩と奉公による主従関係。御恩は領地をあたえる。奉公は軍役を果たす
- 執権政治…頼朝の死後、第2代将軍源頼家と御家人の争い→北条時政が実権をにぎり、北条氏が執権を代々独占(執権政治)→第3代将軍源実朝の暗殺→後鳥羽上皇が挙兵(承久の乱)→幕府はこれをしずめ、京都に六波羅探題を置く→北条泰時が評定という会議を制度化し、御成敗式目(貞永式目)を制定。
評定での判断の基準。武士の慣習に基づく

4 武士と民衆の生活 (図表⑳~㉒)

- 地頭の支配…地頭に任じられた武士は簡素な屋敷に住み、武芸の訓練を行い「弓馬の道」を追究。領地は女子にも分割相続。幕府は地頭と領主の争いを下地中分で解決。
土地の半分を地頭にあたえる
- 民衆の動き…牛馬が農作業に利用され、草木の灰が肥料とされ、三毛作が行われた。寺社の門前や交通の要地で定期市が開かれた。
同じ田畑で米と麦を交互につくる

5 鎌倉時代の文化と宗教 (図表㉓~㉔)

- 鎌倉文化…武士の台頭で貴族は朝廷の文化を見直す。
 - 文学…「新古今和歌集」(藤原定家、西行など)や「方丈記」(鴨長明)。軍記物の「平家物語」(琵琶法師が語る)。「徒然草」(兼好法師)。
 - 建築…東大寺の再建→南大門に運慶の金剛力士像。
- 鎌倉仏教…わかりやすく、実行しやすい教えが広まった。
神への信仰を仏教に取りこむ神仏習合も広まる

宗派	開祖	特色	
念仏を唱える	浄土宗	法然	浄土信仰の教えを徹底
	浄土真宗	親鸞	阿彌陀如来を信じる心
	時宗	一遍	踊念仏、念仏の札
日蓮宗 (法華宗)	日蓮	法華經の題目を唱える	
	臨濟宗	栄西	座禅により自分の力で
禅宗	曹洞宗	道元	さとりを開く

▲D 鎌倉時代の新しい仏教

図表のワーク

世紀	武士の登場と成長	
10	地方の豪族や都の武官の中から、武士がおこる→武士団を形成 北関東で① 瀬戸内で②	東日本の③ 西日本の④
	が反乱→武士の台頭→ が有力な武士団	
11	⑤…白河上皇が摂政や関白をおさえて政治。鳥羽上皇とともに新しい⑥を認める	
12	保元の乱と⑦の乱→源義朝をやぶった⑧が勢力を広げた 平氏の政権 …⑧は武士として初めて太政大臣に任じられた→⑨(神戸市)の港を整備し、 中国の宋との貿易で利益を上げた 源平の争乱 …平氏に対する反感が高まり、諸国の武士たちが挙兵 →平氏は⑩によって、壇ノ浦でほろぼされた ・⑩の兄の⑪は、国ごとに⑫を、荘園や公領ごとに⑬を置いた ・⑪は、⑩と⑭を拠点としていた奥州藤原氏をほろぼした 鎌倉幕府の成立 …⑪は鎌倉幕府を開き、征夷大將軍に任じられた →將軍と御家人の間に⑮と奉公の主従関係 第2代將軍と御家人の争いを経て、北条時政が実権をにぎった →⑯の地位を独占した北条氏が勢力を拡大 ・⑰の乱…後鳥羽上皇が挙兵→幕府の勝利 →幕府は京都に⑱を設置 執権政治の確立 …北条泰時は評定という会議を制度化し、 ⑲を制定	
	武士の生活 ・⑬と領主の間に争い→幕府は土地の半分を⑬にあたる下地中分で解決 ・武士は「⑲の道」や「武士の道」を重視	
	民衆の動き ・農作業に牛や馬を利用 ・草木を焼いた灰を肥料に使用 ・同じ田畑で米と麦を交互につくる⑲が始まった ・寺社の門前や交通の要地で⑲が開かれるようになった	
13		

▼鎌倉文化

特色	武士の台頭で貴族が朝廷の文化を見直した
文学	「⑳」…藤原定家・西行・鴨長明など 「㉑」…琵琶法師によって語り伝えられた 「㉒」…兼好法師の随筆
建築	東大寺の再建…南大門には宋の様式を取り入れた
彫刻	金剛力士像…㉓が制作

▼鎌倉仏教

	宗派	開祖
念仏を唱える	㉔宗	法然
	浄土真宗	㉕
	時宗	㉖
	㉗宗	日蓮
禅宗	㉘宗	栄西
	曹洞宗	㉙

確 認 問 題

① 武士の成長 次の文中の□□にあてはまる語句を答えなさい。

- (1) 地方の武士は、多くの家来を従えて□□を形成していった。 ()
- (2) 10世紀中ごろ、北関東では□①□が、瀬戸内海地方では□②□が反乱を起こした。
①() ②()
- (3) 11世紀後半、東北地方で大きな戦乱が起こったが、源氏の□□がこれをしずめた。 ()
- (4) 東北地方では、平泉(岩手県)を拠点として□□氏が勢力を強めた。 ()

② 武士の政権の成立 次の文中の□□にあてはまる語句を答えなさい。

- (1) 1086年、白河天皇は位をゆずって上皇になり、□□を始めた。 ()
- (2) 12世紀半ば、京都で□①□が起こり、この内乱で源義朝を破った□②□が勢力を広げた。
①() ②()
- (3) ②②は中国の宋との貿易を進めるため、□□の港を整備した。 ()
- (4) 平氏に対抗して兵を挙げた源頼朝は、弟の□□を送って平氏を攻めさせた。 ()

③ 鎌倉幕府の成立と執権政治 次の問いに答えなさい。

- (1) 国ごとの軍事・警察を担当する役人を何というか。 ()
- (2) 荘園や公領の管理や年貢の取り立てを行う役人を何というか。 ()
- (3) 本格的な武士の政権を築き、1192年に征夷大將軍に任じられた人物はだれか。 ()
- (4) 將軍が、御家人が以前から所有していた領地を保護したり、新しい領地をあたえたりしたことを何というか。 ()
- (5) 將軍の力を弱めて幕府の実権をにぎった北条氏が独占した地位は何か。 ()
- (6) 1221年に後鳥羽上皇が拳兵して、幕府軍に敗れたできごとを何というか。 ()
- (7) (6)の後、朝廷を監視するため、幕府が京都に設置した役所を何というか。 ()
- (8) 1232年、北条泰時は評定での判断の基準を何という法令に定めたか。 ()

④ 武士と民衆の生活 次の文中の□□にあてはまる語句を答えなさい。

- (1) 地頭と領主との間にしばしば争いが起こった結果、土地の半分を地頭にあたえる□□という裁定が下されることもあった。 ()
- (2) 同じ田畑で米と麦を交互につくる□□が行われるようになった。 ()
- (3) 寺社の門前や交通の要地では、□□が開かれるようになった。 ()

⑤ 鎌倉時代の文化と宗教 次の問いに答えなさい。

- (1) 後鳥羽上皇の命令で編集され、藤原定家や西行らの歌を収めた和歌集を何というか。 ()
- (2) 東大寺南大門に納められている金剛力士像を制作したのはだれか。 ()
- (3) 琵琶法師によって語り伝えられた軍記物を何というか。 ()
- (4) 一心に念仏を唱えることを説き、浄土宗を開いた僧はだれか。 ()
- (5) 法華経の題目を唱えれば人も国家も救われると説いた僧はだれか。 ()
- (6) 栄西や道元が伝えた、座禅により自分の力でさとりを開こうとする宗派を何というか。 ()

練習問題

1 右の年表を見て、次の問いに答えなさい。(→①~③)

- (1) 年表中の□①~③にあてはまる役職名をそれぞれ答えなさい。
- (2) 年表中のAの□にあてはまる政治の名称を答えなさい。
- (3) Aと同じころから平泉(岩手県)を拠点として栄えた武士団は何氏か。
- (4) 年表中のBの3年後に起こり、平清盛が源義朝を破った戦乱を何というか。
- (5) 年表中のCについて、平清盛は中国の何という国との貿易を進めたか。次から選びなさい。

年代	できごと
935	平将門が反乱を起こす
1086	白河上皇の□が始まる …A
1156	保元の乱が起こる ……B
1167	平清盛が□①になる ……C
1185	平氏がほろびる ……D
1192	源頼朝が□②になる ……E ↓北条氏が□③の地位に就く
1221	承久の乱が起こる ……F
1232	御成敗式目が制定される ……G

[唐 魏 宋 隋]

- (6) 年表中のDについて、壇ノ浦の戦いで平氏をほろぼした人物はだれか。
- (7) 年表中のDと同じ年に、源頼朝が国ごとに置き、軍事や警察にあたらせた役職を何というか。
- (8) 年表中のEについて、源頼朝に忠誠を誓った武士を何と呼んだか。
- (9) 年表中のFののち、幕府が京都に設置して、朝廷の監視や西国の武士の統率にあたらせた役所を何というか。
- (10) 年表中のGを制定した人物を、次から選び、記号で答えなさい。
ア 北条政子 イ 北条時政 ウ 北条泰時

2 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。(→④・⑤)

鎌倉時代になると、武士は領地に屋敷を構え、農民を使って④農業を営んだ。⑤荘園や公領に置かれた幕府の役人が土地や農民を勝手に支配するようになると、領主との間に争いが起こるようになった。

文化の面では、それまでの⑥繊細で優美な貴族の文化とともに、素朴で力強い文化もおこり、武士の活躍をえがいた軍記物などがつくられるようになった。また、成長した民衆や武士の心のよりどころとして、⑦新しい仏教が広まった。

- (1) 下線部④について、鎌倉時代に行われるようになった、同じ田畑で米と麦を交互につくる農業を何というか。
- (2) 下線部⑤の役人を何というか。
- (3) 下線部⑥について、次の書物の名をそれぞれ答えなさい。
 - ① 後鳥羽上皇の命令で編集された和歌集
 - ② 琵琶法師により語り伝えられた軍記物
- (4) 下線部⑦について、禅宗を広めた僧を次から選び、記号で答えなさい。
ア 日蓮 イ 道元 ウ 親鸞 エ 法然

1の答え

- (1) ①
- ②
- ③
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6)
- (7)
- (8)
- (9)
- (10)

2の答え

- (1)
- (2)
- (3) ①
- ②
- (4)



1 歴史上の人物が語った次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 朝廷の政治に不満を感じた私は、瀬戸内海地方で周辺の武士団を率いて反乱を起こしました。

B 私は天皇の位をゆずった後、初めて上皇として政治を行い、摂政や関白の力をおさえました。

C 私は武士として初めて太政大臣の地位につき、娘を天皇のきさきとするなどして権力を強めました。

D 私は鎌倉を本拠地として武士をまとめ、源義経を送って平氏を攻めほろぼしました。

- (1) A～Dにあてはまる人物名を、それぞれ答えなさい。
- (2) Bのころから現れた、寺社がかかえていた武装した僧を何というか。
- (3) Cの人物が中国との貿易を行うために整備した港を、次から選び、記号で答えなさい。
ア 壇ノ浦 イ 堺 ウ 酒田 エ 兵庫(神戸)
- (4) Dの人物に対して、配下の武士は幕府などを警備し、生命をかけて軍役を果たした。このような行いを何というか。

2 右の史料を読んで、次の問いに答えなさい。

- (1) 史料Ⅰは、ある荘園の農民が下線部⑥の行いを下線部⑤に訴えた訴状の一部である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

- ① 下線部⑤・⑥の間に土地をめぐる争いが起こると、幕府は下地中分という裁きを下すことがあった。下地中分とは何か、「半分」の語句を使って、簡単に説明しなさい。

- ② 鎌倉時代に農村で行われるようになった、農作業の新しい試みを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 青銅器を農具として使った。
イ 石包丁を稲穂のかり取りに使った。
ウ 草木の灰を肥料として使った。
エ 高床倉庫に稲を取めるようになった。

- (2) 史料Ⅱの法令を何というか。
- (3) 史料Ⅱ中の□③にあてはまる、国ごとに置かれた役職名を答えなさい。
- (4) 1221年に幕府に対して後鳥羽上皇が挙兵したできごとを何というか。また、このできごとの直後、史料Ⅱ中の下線部④に置かれた役所を何というか。
- (5) 史料Ⅲの文学によりえがかれたものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア いきいきとした民衆の姿 イ 源平の争乱での武士の活躍
ウ 地方の国ごとの自然・産物 エ 貴族の生活の様子

Ⅰ
一 領主に納める材木のことで、
⑤地頭が上京するとか、
あるいは近所の労役だとかい
ては、このように人夫として地
頭の所でこき使われるので、ひ
まが無いのです。(部分要約)

Ⅱ
一 諸国の□③の職務は、頼朝
公の時代に定められたように、
④京都の御所の警備と、謀反や
殺人などの犯罪人の取りしまり
に限る。(部分要約)

Ⅲ
祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響
きあり。娑羅双樹の花の色、盛者
必衰のことわりをあらわす。

1の答え

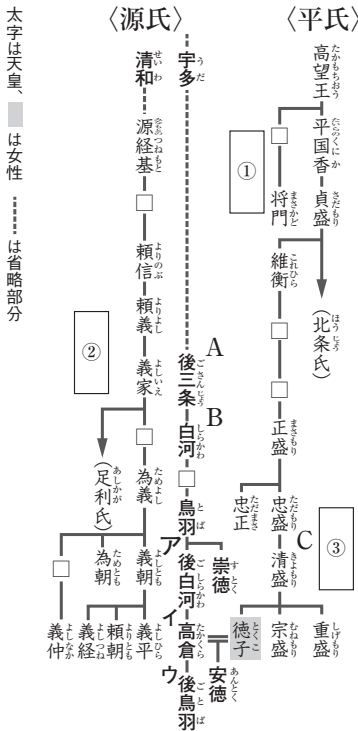
- (1) A
B
C
D
(2)
(3)
(4)

2の答え

- (1) ①
②
(2)
(3)
(4) 挙兵
役所
(5)

ここで差がつく

1 左の源氏と平氏の系図を見て、問いに答えなさい。



太字は天皇、
■は女性、
……は省略部分

みなの方、よく聞きなさい。…
□公が朝廷の敵をたおし、幕府を開いてこのかた、官職といい、土地といい、その恩は山より高く、海より深いものでした。…名誉を大事にする者は、京都に向かって出陣し、逆臣をうち取り、幕府を守りなさい。(吾妻鏡)

- 系図中の①～③にあてはまる戦乱について説明したものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。 ①() ②() ③()
 ア 東北地方の武士どうしの争いをきっかけに起こった。
 イ 朝廷の政治に不満を感じる武士団が北関東で反乱を起こした。
 ウ 天智天皇のあとつぎをめぐる対立を原因として起こった。
 エ 天皇と上皇の対立などを原因として起こった。
- 系図中の②の戦乱の後、源氏と平氏はどのように成長したか。その勢力範囲に触れて、簡単に説明しなさい。
()
- 系図中のA・Bの天皇や上皇について説明したものを、次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。 A() B()
 ア 荘園の整理を行うなどの政治改革を行った。
 イ 都を平安京に移した。
 ウ 「新古今和歌集」の編集を命じた。
 エ 上皇となった後、摂政や関白の力をおさえ、初めて院政を行った。
- 系図中の③の戦乱の後、Cがさらに権力を強めた方法を、「娘」の語句を使って簡単に説明しなさい。
()
- 左の史料は、ある戦乱に際して北条政子が行った演説の内容である。この戦乱を引き起こした人物を系図中のア～ウから選び、記号で答えなさい。
()
- 史料中の□にあてはまる人物名を、系図中から選んで答えなさい。
()

2 左の資料を見て、問いに答えなさい。

- 資料Iには、時宗を開き、諸国をめぐり歩いて信仰をすすめた僧がえがかれている。この僧はだれか。()
 (2) (1)の僧が重んじたものを、次から選び、記号で答えなさい。
 ア 「南無阿弥陀仏」という念仏 イ 神仏習合 ()
 ウ 座禅 エ 法華経の題目
- 資料Iのころ、商業ではどのような動きが見られるようになったか。資料Iを参考にし、「定期市」「寺社」「交通」の語句を使って簡単に説明しなさい。
()
- 運慶がつくった資料IIの彫刻作品の名と、この彫刻が納められた建物の名をそれぞれ答えなさい。 彫刻() 建物()
- 随筆集「徒然草」の中で、いきいきとした民衆の姿を取り上げた人物を、次から選び、記号で答えなさい。()
 ア 鴨長明 イ 兼好法師 ウ 西行 エ 藤原定家